妙智會

5月14日本部供養会
本殿大講堂（ライブ配信）
會長先生ご指導

Vol.166
2025.5.24
1/2

5月は大導師さまのお誕生月であり、女先生がご逝去された月でございます。5月は私にとっても意味深い月でございます。少し女先生のお話をさせて頂きたいと思います。皆さんは會主さま、大導師さまをとてもお慕いされていらっしゃると思いますが、昔は女先生に対しましても、先達の方たちはとても親しく接して下さっていました。會主さまも大導師さまも、良い意味でとても強い方でしたので、やはり鋭いご指導をされていらっしゃいました。そのような中で女先生が「ご指導はこういう事なんですよ」と優しく丁寧に悟らせて、信者さんの心を豊にされた方でした。女先生は常に私に「人は動物と違うのだから、人は謝ることができるんだよ」「何かあったら直ぐに謝りなさい」とおっしゃっていました。気づく、謝る。懺悔の元ですね。それを女先生から教わりました。それが女先生（母）に対する回向であると是非思って頂いて、実践して頂きたいと強く思います。

話は変わりますが新しい教皇さまが決まりました。枢機卿は一般の国でいう政治家で、要はその国を守り教えを広める、バチカン市国の政治的な役割の方たちです。バチカンというのは政教分離の国ではありません。今回の選挙は日本で言う総理大臣を決める選挙と同じ様なものです。私達は宗教的な見方しかしないので驚くかもしれませんが、昔は宗教家はその国の政治家以上の力がありました。それが残っているのがローマカトリックです。日本でも、宗教が国を司る時代がありました。平等に神道と佛教が融合していた時代、日本においても佛教が相当な力を持っていました。それを当時の君主であるアメリカが、特に第二次世界大戦後、アメリ

カ軍の政策もあって、当時は天皇が神さまでしたから、そのような思想をアメリカが怖がって教育の中で天皇は神ではないとしました。ですから、私の考えは第二次世界大戦後の日本は無宗教になってしまい、日本は宗教に対する見方が非常に低くなってしまいました。世界のほとんどは、大統領になった後の宣言は聖書に手を乗せてしますが、日本は法華経に手を乗せて、私は総理になりますとしないでしょう。そういう中で、皆さんは妙智會という宗教団体に入って下さり、教えをもとに生活をされているというのは、外国から素晴らしいと評価されていると思います。皆さんが注意しないといけないのは、一般の無信仰の方たちと同じになってしまう危険があることです。誰も見てなければ何でも良いと考えるのは、恐ろしいことです。見えなくても神佛を信じていれば、やってはいけない事が分かるはずです。日本はネットでの批判が多く、家で 1 人、ネットに向かって悪い事を言えるのは、誰も見ていないからです。ネットでの虐めもそうです。誰も見ていないから言える。要は神佛を信じていないが為に、見えないから何をやっても良いと思ってしまうのです。それに我々は同調してはいけません。女先生がおっしゃったように、日々自分を見つめ謝っていく。誰も見ていないから好き勝手してしまった自分に気が付いて、懺悔していくことが大切です。初めにどなたに謝るかが大切です。まず謝るべきなのは対象の人達です。我々は人間ですから、神佛の前に生きている人間に懺悔するのです。しかし恥ずかしいとか、人が見ているからと考え、存在の見えない神佛に懺悔した方が楽だと考えてしまいます。生きている方に謝ることが大切なのです。目に見えないものを信じる。目に見えないからこそ、誰もいない時に自分を正す。どうぞ今日から、実践をお願いしたいと思います。